

社会を明るくする運動作文コンテスト

社会を明るくする運動のためにできること

太田小学校 五年 宮良 美有 みやら みゆう

私はニュースを見て、「なんで人にひどいことをするのかな」と思うことがよくあります。いじめやどろぼうの話を聞くと、「そんなこと、やめてほしいな」と思います。でもよく考えてみると、社会を明るくするためにはわたしにもできることがあるかもしれないと思います。

八月九日土曜日、家族でショッピングモ

ールで歩いてた時小さい子が迷子になって泣いている子を見かけました。周りの人たちは、チラッと見てそのまま通りすぎていきました。私は家族に「先に行って」と言って真っ先にその子の元へ行きました。私は少しドキドキしながらその子に、「だいじょうぶ」と声をかけました。するとその子は、「うん」と小さな声で返事をくれました。

「お母さんはどこ
と聞くと、

「わからない」。

と今にも泣きそうな声で言いました。そして
考えた結果私は迷子センターにつれて行くの
が一番いいと思ったのでその子に

「お姉さんといっしょに迷子センターに行こ
か」。

と声をかけて手をつないでいっしょにおかい
ました。お母さんが見つかって、その子と、

お母さんが

「お姉さんありがとう」。

と言ってくれた時私は見つかってよかったと
いう安んじとおれを言われたときのうれしさ
でババはんぱんになりました。

そして私は思いました。「社会を明るくす
る」って、むずかしいことじゃなくて、「ち

としたやさしさ」を大事にすることなんじゃ
ないのかと思いました。たとえば、「おはよ

う」と元気にあいさつすること。だいじょう

ぶと声をかけることなどそういうちょっとし
たやさしさの行動を大切にすればみんな自然
と笑顔になって、あるいことも少なくなる
と思います。

私も周りもやさしさでいっぱいになれば、
「き」と社会も明るくなる」と信じています。
これから、「こま」ている人がいれば手を
さしのべる「さびし」ような人がいたら声を
かける「そんなわたしでいいです」。